

# [第138回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

令和 5年 5月



主 催 NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和 5年 6月 3日(土) 15時～17時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」  
テキスト 中江藤樹著・加藤盛一校註『鑑草』(岩波書店)p.234～(用意します)  
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)

令和5年5月13日(土)、安曇川公民館で第137回藤樹人間学塾を開きました。今回は京都、湖南市からの参加者を入れて4名でした。

## ■ テキスト

中江藤樹著『鑑草』の第五卷慈残報の第2話～第4話

## ■ あらすじ

第2話 徐甲の妻の許氏は男子をもうけてまもなく亡くなった。後妻の陳氏は残悪の心行が強く、男子を産んでから継子を苛め抜き死なせてしまった。すると

継子の死後、怨霊が出て陳氏を苦しめついに子も亡くなった。第3話、第4話(略)

## ■ 配布資料

(1)「まなざし 456号」、(2)中国の歴史年表、(3)加地伸行・数土文夫「孔子の歩いた道、遺した言葉」(致知)、(4)鈴木秀子「人生を照らす言葉・杉本省邦の詩」(致知)

## ■ 今日のポイント

- ・ 継子とわが子は本来一体であるという道理をわきまえなければならない。
- ・ 孔子にとって最大の失敗は、魯の国の法務大臣になった時、政敵を死刑にしたのみならず遺体を門前に曝したこと。中国人は善人も悪人もこれくらい怖いということを知って『論語』を読まなければならない。
- ・ 藤樹が性善悪混然説をとっている(吉田公平先生)こともうなずける。
- ・ 命の躍動に気づいていくと、自然界すべてが大宇宙全体の命の現れであることが感じとれるようになる。その自覚はやがて自分の命がいかに多くの人や物、出来事と繋がり、無限の縁によって支えられ生かされているかという感謝の思いへ結びついていく。

## ■ フリートーク

- ・ 「現代社会でも幼児虐待事件が多くあるが、ほとんどが継子いじめである。2500年前から今まで多くの人間は我欲から離れることができずにいる」
- ・ 「草ではワスレナグサが好き。踏まれてもたくましく生きている」
- ・ 「自然界と人間は一体であり、朝ドラ「らんまん」でも雑草という草はないと言っている。植物が地球を助けている」

等の意見をいただきました。ありがとうございます。皆で学ぶと議論が深まります。学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。参加費は無料です。

